活用プログラム 商店街パワーアップ作戦

久が原銀座商店街振興組合（大田区）

大田区初の「まちゼミ」を若手主導で実施、若手商人の結束を強化

地域力を若い力で推進しようと組合に「青年部」を立ち上げる

東急池上線の久が原駅周辺は昭和の初め頃から住宅地として成長した街だ。比較的高所得者が多く、近年は代替わりも進んで若いファミリー層が増加している。駅を中心にいくつかの商店街が形成されている中で、その中心的な役割を担っているのが久が原銀座商店街だ。昭和８年に約10店で始まった商店街で、今では１００前後のさまざまな業種・業態の店舗で構成されている。

１９９３年にはリフレッシュ事業を実施。街路灯のステンレス化と装飾灯の設置、道路のカラー舗装と歩道の拡張、さらにライラックの植栽を行い、以来「ライラック通り久が原」の愛称で親しまれるようになった。街ぐるみの恒例行事には、「ライラック祭り」「夏まつり」「ウィンターフェスティバル」などがある。

鈴木超氏が商店街振興組合の理事長に就任したのは２０１５年。高齢化が進む商店街組織を見直し、さまざまな改革・整備を行ってきた。その１つが、これまでの組合になかった「青年部」を立ち上げたことだ。

「地域力を共に推進してくれる若い力が欲しかったことと、さらにその中から若い人たちを先導してくれるキーパーソンが生まれてくれたらと思ったのが組織した理由です。」

そうした鈴木氏の目論見どおり、青年部の活動を通じてキーパーソンとなるべき人材はすぐに現れる。２０１１年に同商店街にネイルサロン「ナルネイル」を開業した澤田麻由さんだ。

「澤田さんの積極性とやる気を見て青年部の部長を任せたのですが、その選択は間違っていませんでした」と鈴木氏は話す。

実施方法やＰＲで苦戦しながら若手のアイディアでまちゼミを初めて開催

鈴木理事長から商店街の活性化を図るための企画提案を求められ、青年部では何度も会議を重ねた。そのメンバーの一人、池上線沿線に住むデザイナーの安部啓祐氏が、他県の勉強会で「まちゼミ」という商店街活性化の取り組みを知る。

「まちゼミ」は、商店街の店主が講師となり、プロならではのコツや豆知識などを受講者（顧客）に伝授し、店と顧客のコミュニケーションを図ろうという少人数のゼミ講座だ。愛知県岡崎市の商店街で始まり、発起人である松井洋一郎氏が「まちゼミ伝道師」として全国に広め、現在約３７０の商店街が実施している。

「『これだ！』と思いました」と澤田さん。理事長もこれに賛成し、早速、大田区初の「まちゼミ」開催に向けたプロジェクト（実行委員会）が組まれ、最大50講座の開催を目標に参加店の募集が始まった。しかし、初の試みとあってなかなか賛同を得るのは難しい。それまでパソコンを使ったことがなかった澤田さんは、一から操作の仕方を覚え、チラシを作り、全店舗を回った。

「正直、私たち自身も『まちゼミ』の効果がどれほどのものかはっきりとわかっていないので、店主の

みなさんに直接お声掛けしても、理解していただくのは難しいこともありました。」という。そうした経緯もあり、２０１７年の10月に開催した「第１回久が原まちゼミ」は15店・20講座でスタートした。

同時に、「まちゼミ」の周知を図る役割はデザイナーの安部氏に一任。安部氏は、他の地域に例がない、地域の特性に沿ったデザイン性の高いチラシの作成や、積極的なＳＮＳ発信などで取り組みをバックアップした。

商店街パワーアップ作戦利用後のまちゼミでは顧客満足度99％を達成

初の「まちゼミ」は、それでも比較的高い顧客満足度を得ることができ、翌年の開催にもつながった。

「とにかく参加店舗数の増加が１番の課題でした。」と澤田さん。そこで東京都中小企業振興公社の**「商店街パワーアップ作戦」**の支援を受け、新たな取り組みを始める。「その１つが、久が原の他の商店街にも参加を呼びかけることでした。」という。地道な声かけの努力に他商店街も賛同し、昨年10月の「第２回」は、昨年の20講座から43講座まで増加。バラエティに富んだ講座ラインナップを地域住民に提供することができた。

「公社の支援で特に大きかったのが、都内の『まちゼミ』の先駆けである尾山台の実行委員長を講師として派遣していただいたこと。私たちと年齢も近く、とてもフランクに尾山台の経験を踏まえた助言をして頂きました。」と澤田さん。専門家の助言も忠実に実行し、実施後の参加者アンケートは満足度99％、うち74％は「大満足」という回答で、全国的に見ても極めて高い評価を得た。

またアンケートで「まちゼミを知ったきっかけ」について訪ねたところ、１位「お店」、２位「駅」と続いた。「他の地域では『新聞の折り込みチラシ』が１位になることが多いそうですが、参加店のみなさんがそれぞれ積極的にＰＲしてくださったことや、参加店全員が協力して朝７時から駅前でチラシを手配りした結果がこのような回答につながったと思っています。」と澤田さん。参加店同士の連携が深いことが久が原の特長なのだという。

「まちゼミ」の実施は若手商人の結束も固めた。それは鈴木理事長が最も期待していた点だ。

「30～40代の若手が久が原をどう盛り上げるか、行政や商店街理事などに任せず自主的に考えるようになってくれた。さらに若手から70代の古参まで互いの店がどんな商売をしているのか理解を深め合うようにもなりました。」

今後は、「まちゼミ」で得た顧客のリピート化を図り、個店の売上アップに確実につなげていくことが課題。澤田さんら実行委員会は引き続き公社の支援事業を利用しながら、課題解決に取り組んでいく。

商店街データ

名　称／久が原銀座商店街振興組合
店舗数／約100店舗
所在地／大田区久が原3-30-18
電　話／03-3752-3627
Ｈ　Ｐ／http://www.lilac-ave.com/

活用プログラム

商店街パワーアップ作戦

左：澤田麻由さん　中央：鈴木超さん　右：安部啓祐さん